# 持続可能な開発目標（SDGｓ）に関連付けた教育活動の研究

佐賀市立東与賀中学校　生徒会

## はじめに

誰一人取り残さない

令和２～３年度 佐賀県教育委員会研究指定

1. 有明海の他に類を見ない自然の豊かさを知る
 →郷土愛・身近な環境理解
2. 教科学習におけるSDGｓ理解
 →17項目にアプローチする教科学習による
 SDGs理解と具体的実践
3. 学習活動（現地研修）
 →SLタイム（Seach for life）

## 年間計画

誰一人取り残さない

| 通 | 日時 | 活動内容 |
|---|---|---|
| | 通年 | 社/理/保体/家庭/英 |
| 1 | 7/24 | 東よか干潟現地研修会打合せ |
| 2 | 8/3 | SDGs校内研修会（生徒代表と職員） |
| 3 | 10/3 | 1年生東よか干潟現地体験<br>2年生清掃活動 |
| 4 | 11/3 | シチメンソウまつりボランティア |
| 5 | 11/12 | ユニセフ「子どもサミットin佐賀市」 |
| 6 | 12/13 | SDGｓワークショップ |
| | 生徒会 | 地域ボランティアへの参加呼びかけ<br>校内環境ISOの確認等 |

## 学習活動の実際

誰一人取り残さない

通年　『学び合い』授業における「誰一人取り残さない」

1. 全員で学習課題を解決する授業
2. 最後の一人が分かるまでかかわる授業
3. 一人ぼっちにさせない、一人ぼっちにならない、「分かった」＝「説明できる！」
4. 進級時等不登校ゼロ、いじめゼロ

ワークシートの印刷用紙、ありがとうございました。

## 学習活動の実際

誰一人取り残さない

通番３　1年生東よか干潟現地体験活動

1. 10月３日（火）満潮時刻に合わせて
2. 有明海の渡り鳥の生態観察と底生生物の観察で有明海理解と親しみ
3. 
4.

## 学習活動の実際

誰一人取り残さない

通番３　1年生東よか干潟現地体験

1. 10月３日（火）満潮時刻に合わせて
2. 有明海の渡り鳥の生態観察と底生生物の観察で有明海理解と親しみ
3. 佐大生と東よかまち協さんのボランティア
4.

## 学習活動の実際　　誰一人取り残さない

通番３　1年生東よか干潟現地体験

ボランティアの皆さま方にお茶をお渡ししました。

1. 10月３日（火）満潮時刻に合わせて
2. 有明海の渡り鳥の生態観察と底生生物の観察で有明海理解と親しみ
3. 佐大生と東よかまち協さんのボランティア
4. 身近な有明海のことで知らなかったこと
人と人とのつながりに温かさを感じたこと

## 学習活動の実際　　誰一人取り残さない

通番３　２年生東よか干潟清掃活動

1. 10月３日（火）満潮時刻に合わせて
2. 意外な漂流物の漂着
3. プラスティックごみの多さと生物の命
4. 友だちと一緒に活動する安心感、少しでもきれいにできた成就感
5. 有明海は自分たちが守っていくもの

## 学習活動の実際　　誰一人取り残さない

通番４　シチメンソウまつりボランティア

1. ジュニアガイドの取組
2. 募金ボランティア活動への参加
3. 多くの人に有明海のすばらしさを知ってもらうこと
4. 地域行事＝私たちもまつりに行くこと
5. 改めてラムサール条約を考えるようになる

## 学習活動の実際　　誰一人取り残さない

通番５　ユニセフ「子どもサミットin佐賀市」

1. 11月12日（日）
2. SDGｓの視点での意見交換と発表
3. 他校中学生や高校生の意見を聞いた。

安全に佐賀新聞社まで往復できました。

## 学習活動の実際　　誰一人取り残さない

通番５　ユニセフ「子どもサミットin佐賀市」

1. 11月12日（日）
2. SDGｓの視点での意見交換と発表
3. 他校中学生や高校生の意見を聞いた。

安全に佐賀新聞社まで往復できました。

## 学習活動の実際　　誰一人取り残さない

通番６　佐賀大学生によるSDGｓワークショップ

ボードとスクリーンは大活躍しました。

1. 12月13日（水）
2. 1年生：社会科６テーマ「環境問題」
2年生：理科7テーマ「干潟学習」
3年生：技術科6テーマ「カーボンニュートラル」
3. 温暖化が引き起こす世界の災害
干潟の知識をさらに深める
カーボンニュートラルから今できること

まとめ　気づき、考え、実行したいこと　誰一人取り残さない

1. 『学び合い』授業での誰一人取り残さないは、学習内容だけでなく「よりよく生きる」学習、さらに深めたい。

2. 授業では、常にSDG sとの関連性を考えるようになった。

3. ・地域だけでなく、すべてを大切にすることの大事さをいろいろな学習活動を通してわかった。
・地域を大切に思い、地域行事に率先して参加することの大切さに気づいた。
・人と人とのかかわりは豊かさや温かさを育むことを肌で感じた。

4. ・次年度はできるだけ、生徒主体で進め、同等以上の活動をしたい。
・後輩たちがより良い学習ができるようにしたい。

最後に　ありがとうございました。　誰一人取り残さない

1. 鍋島報效会様の研究助成金により、昨年以上の学習活動ができましたことを、心から感謝申し上げます！

2. 今年度は、さらにSDG sと教科学習を進めていきます！

3. ご清聴、ありがとうございました。